

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	楽らく療養通所 ブルーンベリーハウス		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 19日		~ 2026/1/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 19日		~ 2026/1/20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>個別性のある支援計画及び適切な支援の実行 【保護者評価】全ての保護者が「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成され、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている」と回答 【事業者評価】大半の職員が、児童発達支援計画を作成する際には、支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われていると回答 上記より、発達初期段階にあり、より計画的・意図的な介入が求められる中で、チーム連携と実行力の高さが際立っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期面談でアセスメントの更新とニーズの抽出に努め、それを反映させた、個別支援計画の立案を行い作成された支援プログラムは、HPにて公表している。</li> <li>●ガイドラインを参考に、本人支援は5領域・4項目で立案、家族・移行・地域支援もそれぞれ計画を立案している。目標や内容は個別性のある具体的な支援であるよう心掛けている。計画は、精神運動・発達の状況に合わせ見直し更新している。</li> <li>●計画内容の閲覧ファイルを設置している。日々の記録に支援計画の内容が反映されているか、確認している。</li> <li>●朝礼で当日の支援内容・役割分担を共有し、チームとして統一した支援を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別支援計画内容にそった支援が行えているか、スタッフ個々の理解に差がないかの確認を行うとともに、閲覧ファイルを設置し支援の方向性にずれが生じないように注意していく。</li> <li>●個別支援計画の実施状況が分かる一覧表を活用し、進捗状況を可視化していく</li> <li>●定期面談の機会を増やし、ニーズの変化をより早期に把握する</li> </ul>
2	<p>児童にあった生活空間・環境整備の質が高い 【保護者・事業所評価】共に「子どもにわかりやすく構造化された環境・清潔さ・障害の特性に応じてバリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切」などの全ての項目で肯定的な回答がある 上記より、児童発達において安全かつ適正な環境調整・整備が実施されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもにとって、ワンフロアで見渡しやすい環境となっており、手洗いやトイレは見やすい表示と使用しやすい高さで調整しバリアフリー化されている。</li> <li>●事故防止のため、家具類は施錠できるようにしている</li> <li>●児童の特性に合わせてマットの使用や寝具の工夫、環境温度の調整が可能（床暖房も設置）</li> <li>●環境整備のルールを徹底（使用後の物品消毒、日々の清掃、CO2モニターの設置）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの「自己選択」を促す空間設計（選べる活動コーナー、個別スペースは希望時に使用できるように配慮）</li> <li>●季節や成長段階に合わせた環境の定期的な見直し・模様替え</li> <li>●保護者にも安心してもらえるよう、見学や写真付きのお便りで環境を紹介</li> <li>●感覚統合や視覚支援を意識したユニバーサルな空間設計へのアップデート</li> </ul>
3	<p><b>非常時等の対応が整備され、安心して利用できる体制づくり</b> 【保護者評価】：保護者の全員が、「安全を確保するための計画が周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われている」と回答 【事業者評価】：職員全員が各マニュアルの作成と職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施できていると回答 上記より、非常時に備えた体制整備が確立され、それら訓練の実施と見直しが適切に行われ、安全に配慮した運営ができている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各マニュアルを作成し、年次ごとに見直し刷新している。職員には研修にてマニュアルを抄読する機会を持ち、頻回に訓練を実施している。</li> <li>●保護者には年4回の広報誌発行による情報提供、感染症・安全対策などの丁寧な説明や取り組みについて広報誌にて説明し、情報共有を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難訓練の継続や、地域住民の参加も含めた防災活動やイベントを計画していく</li> <li>●新入職者にも分かりやすい内容で事業所取り組みについて説明機会を重ねる。業務継続計画・安全対策・身体拘束・虐待防止・感染予防などの必要性については、職員個々に理解の差がないか確認し、教育を継続していく</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>地域や他機関との連携・交流機会の不足</p> <p>【事業所評価】「地域の児童発達支援センターとの連携、保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会・家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会」については半数以上が否定的な回答</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会とのつながりが弱い、開かれた事業所運営について理解が不足している</li> <li>●外部評価や支援機関との定期的な情報交換・連携体制の強化が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナの影響もあり、地域の子どもとの活動の機会はほぼ持っていない。併行利用児童の関わりの中で、一般保育園の児と接する機会が増えつつあるが、集団での交流の場は行えず、再開のタイミングを逸している</li> <li>●地域連携を消極的に捉え、優先度が下がりがち</li> <li>●児童発達支援管理責任者が地域関連先各所との連携を図っている実態を理解できていない職員もいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員に連携の実態がわかるように、取り組みの経過や記録の回覧など行い伝達していく</li> <li>●子どもと活動できる関わりもだが、まずは周辺児童や住民に事業所所在の趣旨や概要をお伝えし、理解してもらうよう広報していく。感染対策を継続しながら、見学会や合同防災研修などから連携を再開</li> <li>●近隣保育園・子ども園等との交流</li> <li>●地域の子育てイベントや子育て支援拠点に職員が情報収集・顔出しする機会を設ける</li> <li>●自立支援協議会や子育て部会等へ参加も含めて対応可能な体制づくり</li> </ul>
2	<p><b>保護者同士の交流機会・家族支援の不足</b></p> <p>【保護者評価】父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の交流の機会が設けられるという項目で低評価</p> <p>【事業者評価】保護者同士の交流の実態を「分からない」と答えたスタッフもあり、事業所として保護者間の交流機会が十分ではない状況</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者間の交流機会の再開に遅れ</li> <li>●保護者同士の関係性が希薄になり、意見交換の場が不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療依存度が高い利用者層であることから新型コロナウイルスなど感染症予防に対する対策に重点を置き、交流の機会を縮小したまま、再開の機会が得られていない</li> <li>●保護者間のつながりに関するニーズを把握する機会が不足していた</li> <li>●個別活動が中心であるため、全体的な交流の場づくりが後回しになっていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者会設立の前に、保護者参加型の行事の開催や情報交換や交流の場となるような企画を検討していく。感染対策を講じたうえで、小規模・短時間の研修会や交流イベントを段階的に再開</li> <li>●交流イベントをSNSや広報誌で告知し、参加しやすい雰囲気をつくる</li> </ul>